

郡上農林事務所の普及活動状況 令和4年10月31日現在

郡上の農業・農村を支える人材育成

■農福連携 農福連携に関する検討会を開催

農業普及課は、10月19日に農福連携を進めるための検討会を「ともいきの里^{とうや}東弥」において開催した。

本施設は、社会福祉法人ぶなの木福祉会が運営し、自ら農業経営と農産加工を行う事業所である。今回農業普及課を事務局とする郡上地域農福連携会議の構成団体である市・JAとともに施設を訪問し、主に農業面でのこれまでの取り組み状況等について説明した。施設からは農業部門の活動について説明していただき、農福連携を深めていくためにこれから先どんな連携が必要なのか話し合いを行った。

農業普及課では今回の検討会をきっかけに、郡上地域の特徴を生かした農福連携を進めていく。



【検討会の様子】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■水稲 明宝気良でおいしい米づくり講習会開催

地域でブランド米の育成を目指す明宝気良ブランド米づくり研究会が10月17日においしい米づくり講習会を開催した。

農業普及課からは、今年の作柄状況、いもち病や農作業安全を啓発した。また、市のアドバイザーからは、食味向上に向けた施肥体系や水管理の留意点の説明が行われた。また、米コンテストの出品米を見ながら、意見交換を行った。

当研究会は、郡上おいしい米コンテストに全員が参加しており、おいしい米づくりを目指して研修会や情報交換会を開催している。農業普及課では、こうした地域の活動を今後も支援していく。



【講習会の様子】

郡上農畜水産物のブランド展開

■トルコギキョウ 土壌病害虫の調査と土壌消毒方法の検討

高鷲町ではトルコギキョウの土壌病害の被害が大きくなってきており問題となっている。今年の作付でも土壌病害が原因で収量に大きな影響が出た生産者がある。そこで農業革新支援専門員、農業技術センターの職員らとともにサンプル採取、聞き取り調査等を行った。

土壌消毒方法は複数あり、組み合わせることで防除効果が一層大きくなることもある。今後、作業性やコスト、効果時間などを考慮し複数の消毒方法を組み合わせた防除体系を検討していく。

農業普及課では定期的な調査を続け、防除効果を確認するほか、他県の対策などを参考に適切な支援を行っていく。



【土壌断面の調査】

■ほうれんそう 病害虫対策の支援を実施

郡上地域のほうれんそうでは、生育期間を通じて病害虫の発生が問題となっており、今年は白斑病の被害が7月上旬頃からこれまでに散見されている。農業普及課では、白斑病に有効な薬剤を示すと共に、発病葉が速やかに除去されるよう被害防止に向けた情報提供を行っている。

また、9月播種の作型でハウレンソウケナガコナダニの発生が見られたため、薬剤防除を助言したところ、収穫の近づいた10月上旬で発生はなく順調に生育していることを確認した。

ほうれんそうの収穫は11月上旬まで続くため、農林事務所では引き続き各病害虫の発生状況を確認し、産地支援を継続していく。



【害虫による被害葉】

中山間地域を守り育てる対策

■ひるがの高原だいこん 東海農政局によるスマート農業現地視察へ対応

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、令和2年度に国のスマート農業実証事業に取り組んだ。これまでの成果や今後の課題について、東海農政局より局長らが実証経営体の(株)エスタンシア清水社長より直接聞き取りし意見交換を行った。

清水社長からは、ベテラン作業員でなくてもベテランと同等の作業精度を確保できることや、ベテラン作業員であっても作業疲労の軽減につながるものの、メーカー間でのデータ共有ができないことや、自動運転作業範囲が制限されること、機械自体が高価であることなどの課題が示された。意見交換後は、現地ほ場にて自動運転トラクターによる耕起作業を見学し、作業状況・精度を確認した。

農業普及課では、今後もひるがの高原だいこん生産出荷組合のスマート農業機械の作業データを収集し、地域での活用方法を検討していく。



【意見交換の様子】